

# 京都

よしかわ  
**吉川眼鏡店**  
京・左京・大学病院前通川端東入  
(京阪電車 丸太町駅下車東2分)  
☎ 771-0491 (日・祝定休)

こよみは下に掲載

☐のち 5時5分 未満  
☐一時 5時 時々  
数字(上)最高気温  
(下)最低気温  
丸囲みは降水確率  
白ヌキは50%以上  
は正午の風向き  
矢印なしは無風

## 襲空町馬かれた敷令口箝

### 「秘密法」にも危機感

#### 「歴史から多くを学んで」

あの日  
あの瞬間  
とき  
考  
2014  
平和

凍える晩だった。1945年1月16日午後11時20分すぎ、石本喜代史さん(86)＝京都市東山区＝の記憶は鮮明だ。一度地震で目覚め、再び寢床に入ると、しばらくして強い揺れがあり飛び起きた。ドドドドーン。「また地震か」と思い、外に出ると、40分ほど離れた2階建ての家が真っ赤な炎に包まれていた。

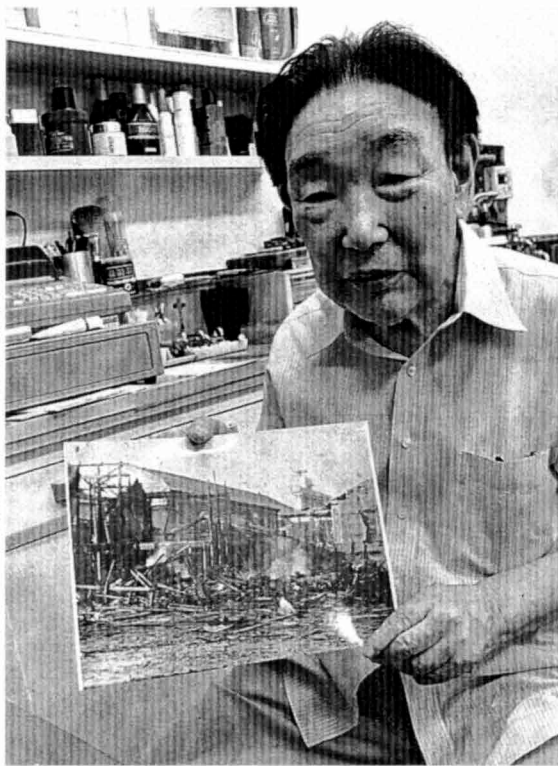
「とうとう京都にも空襲が来たか」。当時17歳の石本さんは早くに父親を亡くしたため、母親と一緒に理容店を営んでいた。既一家の大黒柱で、町内会長らと手押しの消火

ポンプを引っ張り出し、必死に放水した。延焼は免れたが、夜が明けると、周囲では多くの家が爆風でつぶれていた。

京都は文化財が多く、標的になる大きな軍需工場もない。大人たちは「空襲の対象にはならない」と口々に話し、石本さんもそう信じていたが、都合の良いうわさだった。清水寺の南西、馬町地区への空襲では、約20発の爆弾が投下され、41人が死亡した。石本さんの親類3人も犠牲になった。

空襲の翌朝、多くの軍人がやってきた。周

### 石本喜代史さん(86)＝東山区



貴重な写真を手し、馬町空襲の様子を語る石本喜代史さん(東山区)

辺の路地の入り口に立ち、空襲被害を見せたいよう人の出入りを制止した。地区の世話役を集め、「空襲があったことは絶対誰にも言わない」と箝口令が敷かれた。新聞も空襲について詳細を伝えなかつた。

京都市内では馬町に続き、6月までに太秦や西陣などへ計5回の空襲があった。戦後、京都が原爆投下の最終候補地の一つだったこととも判明する。「あと少し終戦が遅れていたら、京都もどうなっていたらどうか」

今も理容師として働く石本さん。3人の孫、2人のひ孫もいるが、日本の未来に危うさを覚える。昨年12月、特定秘密保護法が成立し

た際には「解釈次第で運用できる点で、戦前の治安維持法と変わらない」と感じた。

思い出すのは1937年の「南京陥落」の後、京都市中心部であった提灯行列。大人たちは祝賀ムードに酔いしれ、石本さんも子供心に「これで日本は勝てる」と信じた。

自由に物が言えない空気が、事実が知らされないまま洗脳される怖さ……。石本さんは「若い人たちには、歴史から多くを学んでほしい」と切に願う。

【鶴塚健】